卒業記念におちんちんと記念撮影！

とある日本の村の中学のお話。

この中学では、現代社会では考えられないような文化が根付いていた。

それは卒業式の日に、男の子のおちんちんと女の子のツーショットを撮ること。

卒業式が終わり、3年生の教室は式典の緊張から解放された生徒たちで溢れていた。男子のおちんちんと女子の笑顔を収めた2ショット写真を撮る、甘く恥ずかしい風習だ。親の世代も同じことをしたと聞く。誰もが知っているの

に、実際にその日を迎えると、男子たちは決まって動揺する。

担任の先生が最後の挨拶を終えて教室を出て行くと、女子たちの視線が一斉に男子たちに向けられた。

「拓也くん、卒業記念、撮ろうよ」

明るい声で声をかけてきたのは、彩花だった。クラスで一番人気の明るい女子で、成績もまあまあ良く運動もそこそこできる。拓也は少し内気で、女子と話すときはいつも目を逸らしがちだった。

「え……今すぐ？　ここで？」

拓也の声が上ずる。彩花はくすくす笑いながら彼の袖を優しく引いた。

「みんなやってるよ。ほら、2ショット、私の顔と……おちんちんが一緒に写るようにね」

周囲ではいろんな女子が男子に声をかけている。美咲は、隣の悠真のズボンのベルトに手をかけて「早く早く！おちんちん出して！」と笑っている。悠真は顔を赤らめて抵抗していた。

別のところでは、真面目な委員長の慎太郎が3人の女子たち、眼鏡をかけた文学少女の遥香、ショートカットの元気な葵、優等生の涼香に囲まれていた。

「慎太郎くん、噂で聞いたよ。包茎なんだって？　見栄剥きしてもバレるよ～」

葵がからかいながら囁く。慎太郎は眼鏡の奥で目を泳がせ、「そんなことねえよ……」と小さな声で抗議するが、女

子3人は彼を優しく教室の後ろの方に連れていった。

教室の角では彩花が拓也のおちんちんと写真を撮ろうとしている。

彩花はスマホを構え、期待に目を輝かせている。拓也は深呼吸をしてから、震える指でベルトのバックルを外した。